令和７年３月１４日

（命に愛の唄を心に夢の唄を）（歌詞宮原貴子）

今にも消えそうな希望の灯、何の為に誰の為に泣いているの？全ての望みを絶ち、拒絶し、哀しみの中一人で立ちすくむ姿。何にもなかったので、あなたには、何一つ心う愛し続けたものは何もなかったので、頑張って生きてきたよね？心で泣きながら頑張ってきたよね？それは過去でも今でも皆同じだよ。不思議だね。人は、キッカケがあれば変われるから、良くも悪くも変われるから。命に愛の唄を捧げる。心に夢の唄を捧げる。例え、今は哀しくても。私には力がない、人が普通に覚えた努力の先の生活もない。あるのは病と、人には分からないかもしれない、夢中になった世界の数々。人には私は価値を覚えないかもしれない。しかし私は自分の世界を通して大事だと思えるモノがある。夕いとか少ないとか、そんなんじゃない。もっと大事に想える事が生きていく内に見付かれば気付けたら、それでいいから。だから全てに命の唄を心に夢の唄を捧げる。

（負け続けの人）（歌詞 宮原貴子）

若い頃はただ目の前の事に夢中でがむしゃらで、やみくもに走ってた。永く星の見えない闇の中でさえも。そんな私がキラキラと光ってたのは、初めて、一人の人として見てくれた場所だった。人は今でもたまに私を最低だと言うけど、恥だと言うけど、一体あなた方に、どんな一番があったと言うんだろうって、笑われ、バカにされ、蔑まれ続け病に若しみ、それでも忘れてないよ。人を笑顔にするやり方と、勝負してきた愛を。負け続けの人生でも、今を生きていれば新しい時は流れていくのさ。疲れた背中に背負った何かを、時には忘れて時にはねぎらいながら、ゆっくり生きていくのも良いものだね。皆エラくなりたいかい？大丈夫、エラくなくても、優しい人は、いるからね。傷は体にも心にも付きもの。否定しなくていいよ。それも生きている証だからね。人の言う事と自分の生きていく道は交わろうがなかろうが、どこかに光る玉ノがあるんだから。

（堕天使）（歌詞宮原貴子）

目の前にあるのは誰かを思う心。孤独な心に打ちひしがれた絶望の闇に見た消えそうな愛の灯。もう自分の心にウソはつけない。途絶えた形に、見切りをつけるのは、いつも私の気付いてやれなかった新しい愛だった。人は笑うだろう、偽りのセリフだと。さまよう街人の乾いた心にどこかあきらめを見てこうでなければ生きていけぬと心でなげいて。人は壊かしむだろう、永遠は確かに置き忘れたと。あなたの一人よがりだと。愛したのは間違いなんかじゃない。例え終わったとしても。目の前にいなくても心にずっといたから。甘い夢と別れの涙を残して。バカだね。私は、子供の様に求めて、走って、すがって、許して、迷って、心ごまかして、でも。今ここにいるのは、孤独と絶望じゃない。あなたが私の声を聞いてくれたから。心の声を聞いてくれたから。幸せになって欲しいという声を。堕天使、全ての私を、愛に近付けて、信じて生きてくれる。